

11月に入りすっかり寒くなりました。

朝晩の冷え込みで、森はあっという間に紅葉が進んでいます。

共生林では毎年恒例となった野鳥調査も行われています。現在までに4羽も、この森のほぼ同じ場所で、同じ時期に飛来していることが確認されました。（野生生物の能力におどろきです！）

私達現代人には、計り知れない未知の能力や見えない力に畏敬の念を抱きます。

2010年5月24日 久万高原町立父二峰小学校 由良野第二遺跡学習会

由良野の森で「縄文時代草々期の有舌尖頭器（槍先）」が発見され、地元の小学生が地域の学習のため森にやってきました。松山市考古館・愛媛県埋蔵文化財調査センターの方の協力を得て行われた発掘調査。子どもたちが、土器や石器らしきものを拾って鑑定をしていただきました。この日は、縄文土器のかけらがまたひとつ見つかり、歓声があがりました。1万数千年前から、この森に住む人が居て、様々な営みがあったことに思いを馳せました。私達は未来に何を残すのだろうか……。



2010年5月27日 久万高原町立父二峰小学校 自然科学クラブ活動

遺跡学習につづき同小学校の「自然科学クラブ」がクラブ活動でやってきました。虫を捕まえたり、自然散策したりして、時間いっぱい由良野の森を体験していました。

山の子どもだからといって、いつもの山を駆け回っているとは限らない……

体験を通して感じることができる場所でありたいと思います。

焚き火で焼き芋を焼いたり、楽しい時間をすごしました。



2010年5月31日 ネパリバザー IN 由良野の森

森に併設している「染織工房・天月」が、沖縄の素材展であったネパールの支援団体ネパリバザー（土屋春代表）。農村地帯で手仕事の残るネパールの女性を応援し、子どもたちに教育を・・・と活動を続けています。今回は、スタッフやボランティアの皆さんが森に交流にこられました。2日間、交流を深めつつ、地域の食材や、野草の料理をゆらの会員の甲斐芳子さんに指導していただいたり、森で作った陸稲で餅つきをしたり、会員のつくったマクロビスイーツでカフェを開いたり・・・。スタッフの方からは、ネパールの現状をお話いただき、共に生きる社会について、私達の「買い物する」という行為について考えました。



2010年6月6日 第37回こども森林博士号講座 クヌギの枝打ち

今回の森林博士号講座は共生林の枝打ち。6年前に植えたクヌギを林内に入りやすいように枝を落としました。みんなノコギリを使ってせっせと作業。すっきりとした林内を見渡して木々の成長を感じ、作業を終えました。後半は落とした枝を持ち帰り、ドリルやナイフを使って色々なクラフトを作りました。



2010年6月6日 ゆらの総会

森林博士号講座の後、2010年度のゆらの総会が行われました。各報告の後、話し合いではいろいろな意見や提案もあり、活発な会になりました。

ざっくばらんで、気安い雰囲気での会です。ぜひお越しただいて、由良野の活動に提言をいただきたいと思っています。



2010年6月14日 アカショウビンやってくる

森に夏を告げる鳥—アカショウビン。「キロロロー」と森に響く声は神秘的でさえあります。なかなか姿を見る機会はないのですが、今回は家の目の前に・・・！！。急いでビデオで撮影したものです。とてもきれいな赤です。



2010年6月21日 父二峰小学校1、2年生授業で由良野へ

自然科学クラブに続き、1・2年生がやってきました。これで同小学校の全校生徒が授業で来てくれたこととなります。みんな、由良野の自然に包まれ、溶け込んでもらえたでしょうか・・・？森で遊ぶことが楽しいと思ってもらえたらはじめての一步、大成功です。



2010年6月24日 ヤギがやって来た。

由良野に再びヤギがやってきました。雄雌一頭ずつ。オスは2歳でメスは3歳。会員の富岡さんの紹介でやってきました。まだ名前がついてなかったのでさっそく付けました。オスはケイソウ・メスはミミコ。(こどもの絵本ーケイソウさんは4月がきらいですーから)。あまり人に慣れていないので、近づくと危険(?)ですが、普段は電気柵の中でのんびり過ごしています。もし来年子ヤギが生まれると楽しみが増えますね!

ちなみに、激しいボスあらしの結果、由良野の管理人にはすっかり服従していますので、ご安心を。



2010年7月22日 お蚕さん繭になる

毎年恒例になった由良野の養蚕。今年も6月22日に5000頭やってきました。毎年工房天月の土間で繭になっていたお蚕さんですが、今年から木工所に引越し。それでも今まで通りいい繭ができました。



2010年8月1日 第38回こども森林博士号講座 虫を捕まえてみよう

今回は虫の標本作りを中心に行いました。共生林担当の山本栄治さんから昆虫の標本作りを詳しく教えていただきました。普段よくみているはずの虫ですが、こうしてよく見るとその奇跡的なデザインに引き込まれていきます。



2010年8月1日 新しくできた釜でピザを焼きました。

今年の春、山口に出かけた時に見かけたピザ釜を真似して作りました。少しの薪で4分に1枚ピザを焼くことができます。この日初使用。ピザソースから、ピザの台まで協力してくださったのは、会員でパンの先生、井部友美さん。おいしいピザをみんなにいただきました。



2010年8月6日 ひまわり

開墾した斜面の一角でひまわりを栽培しました。種を採るのが目的です。冬のニワトリの餌にもなります。

今年は種がたくさん採れたので来年は面積を広げ、餌の自給率を増やす計画です。



2010年8月14日 ひよこがたくさん生まれました。

由良野で飼っているニワトリは現在26羽。鷹や狸に襲われたり、ひよこが生まれたりして一年中増えたり減ったりしています。今年もたくさん生まれましたが最後に残るのは3分の1程度でしょうか。自由に放し飼い・・・は生き残りのリスクを背負うことでもあります。



2010年8月23日 トリニティールーツ ライブ & タコスを作ろう

昨年の夏にもコンサートをしてくださったトリニティールーツ。今年もステキな演奏をしてくださいました。いろいろな民族楽器を使った生演奏は、普段なかなか体験できないので遠くからも参加がありました。それに合わせて、開演前タコスを実演販売。8月1日に使った釜でトルティーヤ（皮の部分）を焼きました。材料には久万高原でつくられたとうきびの粉・イタリアントマトソースを使用。こちらも大人気でした。



2010年8月29日 第5回手打ちうどん体験

夏の定番となった、松山の「うどん坊」中塚さんによる手打ちうどん体験。5年連続で奉仕していただいています。参加者も年々上達してきました。うどんをこねるときに使う塩水のこと、塩分濃度のことなど、うどんの奥深さを体験できました。上手に釜揚げしていただいたうどんを、みんなで美味しくいただきました。



2010年9月5日 第39回こども森林博士号講座 川辺の生きもの 川であそぼう

今回の博士号講座は由良野の森から2キロ下ったところ二名川です。今回は初めから釣り専門や玉網専門の博士もおり、思い思いの方法で川に入りました。最後にみんなで集めた生き物達を観察し、そと川に戻しました。



2010年9月18日 桑の葉を粉末に

森にたくさんある桑の木は、養蚕が盛んだった頃に植えられたものです。桑の葉っぱの成分がとっても体にいい・・・という耳寄りな話を聞いて、さっそくやってみました。まずは、葉を摘んで天日干し。カラカラに乾いたら地元の作業所にあった粉碎機で粉末にします。粉は、まるで抹茶。今年は、桑の粉でマフィンやパンを焼いてみました。また、会員の石丸さんが宇和島市の昔ながらのせっけん屋さんと提携して、釜たきの『桑の葉せっけん』を開発しました。好評販売中です。 由良野の森でも取り扱っています。 工房天月まで。



2010年9月26日 フラメンコ IN 由良野の森

いつもクラシックコンサートでお世話になっている、アンサンブルさくら・柏原さんの紹介でご縁ができたフラメンコ。高知の堅田幸子さんのグループとアンサンブルさくら・フラメンコギターの廣川さんによる、クラシックとフラメンコの組み合わせ。初めての試みだそうですが、参加者はダンスの迫力と演奏に引き込まれました。翌日、「フラメンコが夢にまで出てきた」と云われた参加者もいました。



2010年10月3日 第40回こども森林博士号講座 トンボをつかまえよう

今回のこども森林博士号講座はトンボ。みなさん、秋に見かける『赤とんぼ』はどんな種類がいるかご存知でしょうか。今回はその見分け方を学びました。パッと見た感じはみんな同じに見えるのですが、よく観察すると、少しずつ違いがあるようです。今回由良野の森で特に多かったのは「ナツアカネ」。

秋だからもうすっかり「アキアカネ」だろうと思っていましたが・・・。

きちんと観察をしないと分からないものです。



2010年10月11日 陸稲稲刈り

今年も陸稲の稲刈りをしました。今年は昨年比の4分の1程度。何とか年末の餅つきができればいいのですが。さて原因は、今年稲の蒔きすぎ、土づくり、草取りが十分でできなかったこと。それに、夏の早魘でしょうか。とてもいい勉強になりました。現在来年に向けて土づくり中です。



2010年10月19日 久万高原町立明神小学校3・4年生「里山たんけん」

愛媛県環境教育推進事業の体験学習の一環として行われた授業です。明神小学校の児童たちがやってきました。共生林で山本栄治さんのお話を聞き、コナラの間伐作業を体験、終了後コナラの柴を集め、池のそばまでみんなを持って降りました。その柴で焚き火をし、竹に巻きつけたパン生地を焼いて食べました。里山と里の生活がどのように結びついているのか体験する機会になったようです。



事務局より・・・

昭和14年発行の「科学の日本的把握・学問」（橋田邦彦氏）の言葉から学ぶことがたくさんあり。

「人間が人間として生きて居るのは、人間が自然の中のものとして、自然に育まれて、自然に生立たせられて居るからであるということは誰人にも分かり、又異存のないことでありますから、少なくともこの事においてだけでも自然というものは人間から独立しているものでは絶対ないのであります。我々を育て呉れるものは自然であります。」 P19－P20

このことを体験から五感で感じることでできる場に成っていけばと願っています。

ゆらの通信、ようやく皆様にお届けすることができそうです。

いつも予定を大幅に遅くなり、申し訳ありません。

盛りだくさんの企画と、年毎に由良野の森を訪れる方が増えていることを喜ばしく思っています。

（事務局兼管理人がもたついている・・・ということにご理解ください）

バーチャルでない五感で感じる自然のなかでの時間。

痛いことも、寒いことも、汗かいたあとの涼しい風のことも。

小さな虫の目のくらむような美しい模様のことや、のどの渇いたときの野いちごの美味しいこと。

秋の森が眩しいくらい、色づいてきました。

これから忙しい年末を迎えます。皆様、お元気で過ごしてくださいませ。

11月28日は『今年こそ毛筆で書こう！年賀状』があります。年の瀬、近いですね～。